

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2373001375
法人名	有限会社みふねの家
事業所名	グループホームあさがお
訪問調査日	平成 20 年 2 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 23 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2373001375
法人名	有限会社みふねの家
事業所名	グループホームあさがお
所在地	豊田市御船町東山畑57-13 (電話) 0565-44-1847
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成20年2月20日

【情報提供票より】 (平成20年2月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年2月15日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	16 人	常勤 3人, 非常勤 13人, 常勤換算 4.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年2月3日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 74 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	牧原胃腸科外科
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福祉関係で働いていた運営者と管理者が「人としての尊厳を大切にしたい介護」を目指して、4年前に開設したホームである。運営者が育った2階建木造家屋を最小限のリフォームにとどめ、周辺が林と茶畑に隣接した緑の多い環境となっている。運営者は、ホームをより一層良くしようと、毎年、年間目標を決め、職員の日々の活動の方向性を示しながら、職員と一緒に意欲的にケアの質の向上や改善に取り組んでいる。入居者は我が家にいるような安らぎの笑顔や動きをしており、それを職員は温かいまなざしで見守っている。今後、地域に根付いたホームとして発展することを期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	献立内容の見直し等の改善課題は、全ての職員で確認し、改善に向けて努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は評価の意義を理解し、評価を活かした具体策を検討しながら、全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヵ月毎に運営推進会議を開催し、ホームの活動状況等について報告し、意見交換を行なっている。また、そこで出た意見等をホームの運営に反映させ、更なるサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や月一回の電話連絡時に意見や要望等を問いかけ、ホームの運営に反映させている。不満や苦情等は何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意して対処している。その他に市の介護相談員を受け入れ、外部者へ表わせる機会を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩等の際に、近隣住民との挨拶や野菜をもらえる関係ができており、地域との交流に努めている。また、ホームに近隣住民が気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気づくりにも配慮している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念「相思相愛」を基に、5項目の方針と年間目標「挨拶の後、一言」を決めて、取り組んでいる。地域との関係強化を目指した理念は作りあげていない。	○	現在、理念の見直しに取り組んでいるので、この機会に、地域の社会的資源の有効利用や近隣住民との交流等、果たすべき役割をホームの理念の中に反映することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者や管理者は日々の職員との会話や会議等の中で、運営方針等を具体的に話して、確実に浸透させて、共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人のため、町内会には加入できないが、月1回の地域掃除や防災訓練、近隣の小学校の見守り等に参加して、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は、評価の意義や活用方法を理解している。管理者は評価の活かし方を職員にわかりやすく伝え、全職員を3グループに分け評価結果を再検討して、ケアの振り返りや見直し等に活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や老人クラブ代表、地域包括支援センター職員、家族等のメンバー構成で2ヵ月毎に実施し、その都度、議事録も記録している。また、参加メンバーから素直な意見等を引き出すよう留意して、サービス改善等にむけた具体的な取り組みにつなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への市職員の参加が難しいため、現在は市の介護相談員派遣事業を活用した間接的な連携となっている。	○	日頃から行政に出向き、ホームの実状やケアサービスの取り組み等を伝えているが、引き続き、ねばり強く情報提供し、協力関係の構築を進めていくことが期待される。
no					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「グループホーム便り」の広報誌による3ヵ月に1回の定期的な報告の他に、個別の報告として、各入居者の担当職員が家族の訪問時や月一回の電話による情報提供を行なっている。金銭管理についても毎月家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時や月1回の担当職員の近状報告時に家族等の意見や要望等を引き出すよう留意し、それらを運営に反映させている。また、外部者への不満や苦情等を受け付ける場として、市の介護相談員を受け入れている。	○	意見や相談ケースはきちんと記録し、その傾向と対策について、職員間で分析して、サービス改善につなげていく取り組みが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は入居者と職員の馴染みに関係づくりの重要性を認識しており、職員の離職を最小限に抑えるよう努めている。代わる時は入居者へのダメージを極力少なくするよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員の質の確保や向上にむけた育成が不可欠と理解しており、外部研修への参加を奨励している。また、運営者自身も積極的に職員教育に力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との交流や連携の必要性を認識しているが、実践には到っていない。	○	運営者は他のグループホームとの交換研修等を模索しているが、できるだけ早く、交流を通じたサービスの質を向上させる取り組みが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス現場のおためし入居や短期入所等を行なって、他の入居者や職員に馴染み、安心して利用できるように、段階的な支援を家族等と共に行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者や職員は、入居者と共に暮らす仲間として、日常的な「こだわり」や「楽しみ」などの思いを共感し、理解する場面づくりや声掛けに努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や職員は、日々のかかわりの中で、入居者の行動や表情、言葉などから、その真意を推し測ったり、それとなく確認して、入居者の希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各入居者に担当職員を決め、日々の関わりの中から得られた意見や要望等を取り入れ、個人の特徴をとらえた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に1回程度の定期的な見直しが実施されている。また、本人や家族等の思いの変化や要望等が生じた場合には、期間にとらわれず臨機応変に現状に即した新たな介護計画が作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、医療処置を受けながらの生活の継続及び本人の状態に応じて、通院時の移送サービス等の支援を柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の馴染みの医師による継続的な医療の支援を行なっている。また、本人や家族等の同意と納得の上で、協力医療機関の受診も可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のあり方や終末期の対応は、入居時に本人や家族等に説明し、同意を得ている。過去、入居者の終末期を体験しているが、その時、かかりつけ医との連携の難しさを今後活かせるように全員で方針を再検討している。	○	看取りの経験からの学びを十分行い、終末期ケアをどのようにつくっていくか、先駆的に取り組まれている課題を検証しながら、積極的に進めていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりの誇りやプライバシーを見極めており、その人に合った言葉かけや支援がなされている。書類の一部が居間の書棚に置かれている。	○	個人情報等の書類が入居者の団体の居間にあり、目の届かない場所に保管するなどプライバシーを確保する取り組みが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やペースを大切に、その場の状況に応じた「その日」したいことや食べたい物等を把握するなど、入居者が主人公となる個別性の支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりのできることを把握し、食事前に体をやわらげ、のどを開く等の体操を取り入れ、食事への意欲を高めている。また、調理や片付け等を分担して職員と一緒に進めている。茶碗や湯呑み、箸などは個別の物を使用し、職員も同じ食卓を囲んで、家庭的な雰囲気ですべてを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴や夜間入浴など入居者の希望に応じている。入浴時の羞恥心や負担感等を職員はよく理解しており、一人ひとりの意向を第一に、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の身体状況を見ながら、カラオケや編み物、喫茶店など、張り合いや喜びのある生活の支援をしている。また、役割等の楽しみとして、掃除や洗濯物たたみ、調理等の参加を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者のその日の希望にそって、買い物や散歩、近隣の喫茶店等へ、日常的に戸外に出かけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は施錠の弊害をよく認識しており、居室や玄関は鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関前は車の往来が多く、門扉はチェーン施錠となっている。	○	門扉の施錠についても、自由な生活を支援するために、安全に配慮して開錠できる取り組みの検討が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練に参加して、緊急時の避難経路や連絡手段等を身につけている。また、日頃より、近所の協力が得られる働きかけている。	○	いざという時に備えて、何ができるかを職員間で確認し合い、共通の情報を持つことが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や水分補給量は個人の介護記録表に記録して、職員間で情報を共有している。また、入居者一人ひとりの状態や習慣に応じて、盛り付け等を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改修したホームであり、玄関や居間、台所、浴室等の共用空間は一般家庭の雰囲気である。廊下やトイレ等の要所には手摺りが取り付けられ、異臭や不快な音はない。トイレの入り口はカーテンのみとなっている。廊下の暗さやトイレ入り口がカーテンのみで、転倒防止やプライバシー保護面から、好ましくない。	○	ハード面上、改修が難しいと思われるが、更なる工夫等で改善が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はテレビやラジオ、整理タンス、日常用品等、使い慣れた馴染みの物が傍に置かれ、安心して過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。